水源の里

上流は下流を思い、
下流は上流に感謝する

第14回
全国水源の里シンポジウム

in 福島県喜多方市

水源の里
持続的発展のための
地域戦略

～社会の大転換期における
水源の里が持つ
多様な価値を生かして～

日程：令和４年10月27日（木）・28日（金）

会場：喜多方プラザ文化センター（福島県喜多方市字押切二丁目1番地）

本パンフレットには、「青海波に千鳥」「流れに鯉、桜」喜多方の染型紙（福島県指定重要有形民俗文化財「会津の染型紙と関係資料」）を活用しています。

開催趣旨

私達が暮らす「水源の里」は、豊かな自然に恵まれ、水源の涵養や自然災害の抑止等、国土の維持・保全、良好な生活環境の形成に欠くことのできないものであり、「水源の里」に住む人々は、自然を活用しながら生活を営み、様々な産業や文化を育み、それらを継承しながら、都市部に暮らす人々の食料、水、エネルギーを供給し、質の高い生活文化など我が国の暮らしを支える大切な役割を果たしていますが、都市部への人口流出、少子・高齢化により、過疎化が進行し、地域活力の低下や山林の荒廃を招いています。

一方、新型コロナ感染症の世界的なまん延、革新的な技術開発による社会の転換期を迎える中、水源の里が有する多様な価値が見直され、都市部の若者の地方への移住、デジタル化できないものの価値の向上など田園回帰の潮流が強まるとともに、革新的技術による地域課題の解決も期待されており、令和３年４月には、多様な機能や役割が一層重要になっている「水源の里」などの過疎地域の持続的な発展を支援する「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」が施行されました。

そこで、直面するこのような社会の変革や課題に対し、その克服に向けた取組を実践している住民、自治体、有識者が一堂に会し、地方創生、田園回帰の流れを捉えながら、持続可能な地域づくりをするために、地域自らがどのように戦略をたて、どう取り組むべきなのか、我が国全体の問題としてとらえるとともに、「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」の理念に基づく流域連携の必要性を全国にアピールする場としてこのシンポジウムを開催します。

シンポジウムプログラム

10月27日 木

13：00～　オープニング

13：10～　開会式

13：45～　水源の里フォトコンテスト表彰式

14：20～　基調講演　【講　師】　田口　太郎氏

15：30～　パネルディスカッション
【コーディネーター】　遠藤　和子氏
【パネリスト】　石島　来太氏
【パネリスト】　松﨑健太郎氏
【パネリスト】　堀　恵子氏
【パネリスト】　秋山　綾子氏

16：45～　大会アピール

16：50～　次回開催地あいさつ

17：00～　閉会式　18：00～　交流会

出演者プロフィール

基調講演　講師
パネルディスカッション
コメンテーター
徳島大学　准教授
田口　太郎氏

神奈川県出身。早稲田大学建築学科卒業、同大学院修了、博士（工学）早稲田大学助手、新潟工科大学准教授を経て現職。専門は都市計画・まちづくり。内閣府、総務省、農林水産省の様々な検討会等の構成員を務める一方、自身も徳島県内の過疎集落で生活され、国レベルから現場レベルまで様々な地域づくりに関わっている。

パネルディスカッション
コーディネーター
農研機構　研究領域長
遠藤　和子氏

福島県喜多方市出身。国立研究開発法人 農研機構 農村工学研究部門 資源利用研究領域 地域資源利用・管理グループ研究領域長。農林水産省北陸農業試験場、同農業研究センター、独立行政法人農業工学研究所を経て、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部門にて現職。研究分野は農村計画。

パネルディスカッション
パネリスト
NPO法人かけはし　代表理事
石島　来太氏

長野県上田市出身。福島大学人間発達文化学類卒業。東北大学大学院経済学研究科「地域イノベーションプロデューサー塾」卒塾。２０１７年から３年間喜多方市高郷町の地域おこし協力隊として活動し、２０２０年２月に学びの機会と環境を提供する団体「NPO法人かけはし」を立ち上げる。現在はその代表理事として様々な事業を展開しつつ、喜多方のまちづくりに日々奔走している。

パネルディスカッション
パネリスト
㈱ オクヤピーナッツジャパン　代表取締役
松﨑　健太郎氏

福島県喜多方市出身。会津農林高等学校卒業。1997 年「おく屋」創業、2009 年「株式会社おくや」法人化・代表取締役就任。退任後、2020 年農業法人㈱オクヤピーナッツジャパンを創業、現在、認定農業者・代表取締役。会津の名産品であった「豆」に着目し、豆菓子の製造販売開始。2010 年会津の農家と立ち上げた「会津豆倶楽部」による落花生契約栽培、会津産落花生を地元からＰＲするための「おくやピーナッツ工場」、東北初のピーナッツ一次加工所「会津落花生センター」開設、会津の障がい者施設と連携した落花生の手剥き等、会津・喜多方地域の活性化に貢献することを目指した活動を行っている。

パネルディスカッション
パネリスト
㈱河京　監査役
堀　　恵子氏

福島県喜多方市出身　明治大学経営学部卒。その後地方公務員として、環境・子ども・教育・文化行政に携わる。2020 年喜多方市にＵターン　母亡き後、㈱河京の監査役に就任。現在、カフェ＆スイーツ　コッコツリーのガーデンを担当　また世田谷美術館（向井潤吉展）や日本女子体育大学（レトロ横丁イベント参加）との交流のサポート等を行う。

パネルディスカッション
パネリスト
（一社）日本ポジティブヘルス協会　代表理事
秋山　綾子氏

福島県いわき市出身、喜多方市育ち。金沢大学医学部保健学科卒、北里大学大学院医療系研究科修了（医科学修士）。大学病院で心臓リハビリテーションに携わったのち、起業。ウェルネスツーリズム企画など健康関連事業を展開。2020 年に U ターンし、市内中心部の小田付蔵通りにワーケーション HUB「醸し場」を整備。首都圏企業と地元事業者のコラボレーションなど、喜多方における新たな魅力や機会の創出に注力している。

現地視察研修

10月28日 金

Aコース

有機農業のまち熱塩加納で食べる日本一美味しい学校給食コース

9：00	喜多方駅西側駐車場　出発
9：20	熱塩加納総合支所
9：50	夢の森花の散歩みち
10：30	村の観察会
11：15	大峠・栂峰渓流水等説明
11：45	学校給食（見学・昼食）
13：00	喜多方駅西側駐車場　解散

有機無農薬、特栽米で知られる熱塩加納町。めてに磐梯ゆんでに飯豊、名水100選の栂峰渓流水が田畑を潤し、水源の里としていち早く下水道整備を行いました。まごころ野菜の会の食材を使った学校給食は文部科学大臣賞。地元有志はウワミズザクラの森を復活させ、キクイモを作り、村の宝を探すお散歩会・むらかん（村の観察会）を開催。三ノ倉高原では東北最大のひまわり畑や菜の花が観光客をお迎えします。

Bコース

都市ボランティアとともに守り引き継ぐ本木上堰と水資源コース

9：00	喜多方駅西側駐車場　出発
9：30	本木・早稲谷集落
10：30	上堰・棚田　視察・ウォーク
11：30	山都そば・茅乃庵（見学・昼食）
13：00	喜多方駅西側駐車場　解散

約275年間、本木・早稲谷集落の棚田に水を供給している本木上堰は、全長6㎞の約半分が開削当時の土水路で維持に多くの労力が必要である一方、地区住民の高齢化等が進むことで維持活動が困難になっています。「本木・早稲谷　堰と里山を守る会」では、「堰さらい」ボランティアを募集し、都市住民等との交流を図るとともに、上堰米や日本酒の販売など付加価値を高める取組を行いながら、本木上堰を守っています。

Cコース

フットパスで秋の会津を体感しながら巡る、新しい地域資源づくりコース

9：00　喜多方駅西側駐車場　出発
9：40　磐見会館（説明）
10：10　フットパスウォーク
11：00　直売所見学
11：30　高郷雷神そば（昼食）
13：00　喜多方駅西側駐車場　解散

５つの集落からなる磐見地区は、福島県会津地方のシンボルで宝の山と親しまれる霊峰「磐梯山」が望めることから「磐見」と名付けられ、棚田、ジュンサイが自生するため池、清流に住む蛍等様々な地域資源があり、地区住民はそれらを生かし、森林や田園等のありのままの風景を楽しみながら歩く「フットパス」コースづくり、ザーサイ栽培、直売所運営、大学生との交流等様々なプロジェクトに取り組んでいます。

Dコース

水の恵みを生かし、蔵で醸される「酒・味噌・醤油」発酵のまちづくりコース

9：00　喜多方駅西側駐車場　出発
9：10　味噌・醤油・日本酒見学・試飲等
11：00　喜多方の染型紙
11：30　喜多方ラーメン（昼食）
12：30　会津喜多方ラーメン館
13：00　喜多方駅西側駐車場　解散

「蔵とラーメンのまち」喜多方市の北西、万年雪を抱く飯豊連峰に連なる栂峰の「栂峰渓流」は市の上水道の源泉で環境省「平成の名水100選」に認定されています。

その豊かな水資源が「酒・味噌・醤油」等の醸造業に活用されることで、蔵文化が発展し、現在も醸造のまちづくり、地域産業として継承されています。

主　催

第14回全国水源の里シンポジウム実行委員会
一般財団法人 自治総合センター

協　賛

全国水源の里連絡協議会

後　援

内閣府、総務省、農林水産省、国土交通省、福島県、
全国市長会、全国町村会、一般社団法人全国過疎地域連盟、
全国山村振興連盟、全国環境整備事業協同組合連合会、
全国農業協同組合連合会、全国森林組合連合会、
全国漁業協同組合連合会、全国内水面漁業協同組合連合会、
独立行政法人水資源機構、一般社団法人全国浄化槽団体連合会、
中山間地域フォーラム、棚田学会、特定非営利活動法人 地球緑化センター、
全国水源林造林協議会連合会、読売新聞東京本社福島支局、
毎日新聞福島支局、朝日新聞 福島総局、産経新聞福島支局、
福島民報社、福島民友新聞社、河北新報社、
ＮＨＫ福島放送局、福島中央テレビ、福島テレビ、テレビユー福島、
福島放送、共同通信社福島支局、時事通信社 福島支局、
ラジオ福島、ふくしまＦＭ、喜多方市教育委員会、
喜多方市行政区長会連合会、会津喜多方商工会議所、きたかた商工会、
会津よつば農業協同組合、会津北部森林組合、
喜多方市社会福祉協議会、一般社団法人 喜多方観光物産協会、
喜多方市ふるさと振興株式会社、喜多方シティエフエム
（順不同）

※ このシンポジウムは宝くじの助成金で実施するものです。

第14回全国水源の里シンポジウム実行委員会 事務局
福島県喜多方市 地域振興課
☎ 0241-24-5275 fax 0241-25-7073
E-mail chiiki@city.kitakata.fukushima.jp